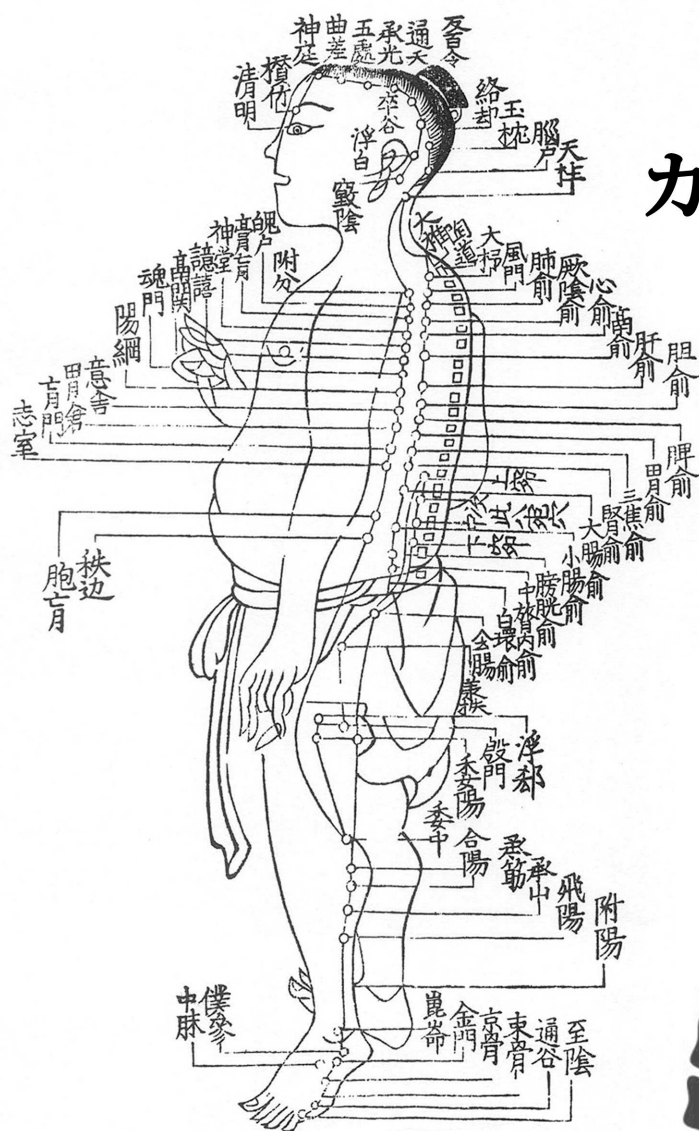


# 「骨格」を整える カイロプラクティック



「気」を  
めぐらす

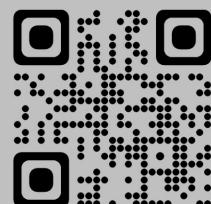
鍼灸

カイロプラクティック  
ケアセンター



カイロ × 鍼灸

なにをしてもよくなる方はこちらにご相談ください





# カイロプラクティックケアセンターは カイロプラクティックと鍼灸の 専門治療院です

## ◆佐々木 峯 D.C.が1996年に開院

当院は、顧問の佐々木 峯 D.C.が1996年に中区元町から移転したカイロプラクティック専門の治療院です。

## ◆吉岡 広記が2022年4月にはりきゅう部門を併設

現院長で鍼灸師の吉岡 広記が、2001年4月より戸塚に開院していた吉岡鍼灸院の本拠を、2022年4月にカイロプラクティックケアセンター内に移し、はりきゅう部門を併設しました。

## ◆現体制は2023年4月から

2023年4月より元院長の佐々木は顧問に、吉岡が院長に、山田 恵美が副院長となりました。なお、佐々木はこれまでどおり13時までは院につめ、治療もしています。

## なぜカイロプラクティックと鍼灸なのか 「顧問の思い」

### ◆症状は「痛み」や「シビレ」だけではない

当院に来院される患者の多くは、「痛み」や「シビレ」以外の様々な症状をかかえています。例えば頭痛、冷え性、便秘、慢性疲労（倦怠感）、花粉症、アトピー、喘息、生理に関する不調、更年期障害など枚挙にいとまがありません。それらのほとんどは、ストレスによるもので、自律神経失調症や精神疾患など病名のつく場合も少なくありません（中には膠原病のような重篤な病気もあります）。

### ◆総合的な治療ができたなら

私はカイロプラクティックの専門家であり、その適応の症状には対応ができますが、このような様々な症状に苦しんでいる患者の「総合的な治療」ができるわけではありません。長らく感じていたこの思いを実現する機会は急に訪れました。私の患者が吉岡と山田の鍼灸院に長らく通い、また山田が私のもとに治療に来るという縁により、話は一気に進み、当院での「はりきゅう部門」併設に至りました。

### ◆私のカイロプラクティックも引き継いでもらいたい

吉岡と山田の加入を機に、私の40年に及ぶカイロプラクティックの知識と技術、そして、の

べ10万人を超える患者に支持してもらったこのカイロプラクティックケアセンターを、このまま終わらせることがとても惜しく感じられるようになりました。

そこで、両名に私のカイロプラクティックのすべてを引き継いでもらうことにしたのです。決して容易なことではありませんが、すでに鍼灸治療をしてきている両名ならば、解剖などの基礎知識も十分にあるため、「見て覚えられる」と思いました。実際、私の見当通り、見事に習得してくれました。このことは両名にとって、そして、両名の治療を受ける患者にとっても意味のあることは疑いようがありません。

私の心身が続く限り、私自身も治療にたずさわり、時間の許す限り、両名とともにさらなるカイロプラクティックの追求を続けていきます。

## ◆鬼に金棒

ひとりの施術者がカイロプラクティックと鍼灸による「総合的な治療」ができるなら、つらい痛苦のために深く悩み、正常な生活ができなくなってしまうほどの状況にある患者にとって、これほどよいことはないでしょう。それは、施術者にとってもよりの確な対応ができるわけですから、双方にとって「鬼に金棒」と言えます。私も含め、今後も研鑽あるのみです。

# カイロプラクティックと鍼灸の違い

## ◆カイロプラクティックは「外」を

「外」 = 骨格・神経・関節・筋肉

「痛み」「シビレ」「動作制限」「くずれた姿勢」などの原因を主に骨格のゆがみズレとそれらによる神経圧迫や関節・筋肉の異常と捉える

骨格のゆがみ・ズレを矯正し、筋肉の緊張や炎症を速やかに解消することで

### 「骨格」を整える

- ・神経や血管の流れ（機能）が正常化する
- ・結果として「痛み」や「シビレ」がとれ
- ・動作や姿勢も改善する
- ・頭のとっぺんから足の指先に至るまでのすべての関節・筋肉の異常が対象となる

## ◆鍼灸は「内」を

「内」 = 気

様々な症状（「外」の問題を含む）の根本を気の滞り・偏在に伴う（いわゆる自然治癒力の低下による）諸機能の不全として捉える

諸症状の新旧や軽重を分け、日々左右され続ける心身の在り様を、①気の偏在（陰陽）、②蔵府経絡のバランスと風雨寒暑の影響（五行）に整理し、全身的な治療をすることで

### 「気」をめぐる

- ・身体の諸機能が活性化される
- ・複数の症状が同時並行的に改善していく
- ・故に身体的な症状だけでなく、精神的な不調も含まれる

## 共通するのは

**人にもともと備わっている「自然治癒力」を後押しすること**

# 当院だからできること

## ◆カイロプラクティックと鍼灸による総合的かつ相補的な治療

様々な症状は、どれも「内」と「外」に関係しています。「総合的かつ相補的な治療」と言っても、よりどちらに問題がある状態なのか、あるいは両者を問題とすべき状態なのかによって、すべき治療が変わってきます。こうした病態の把握と治療は、「内」と「外」を同時に診ることではじめてできることです。

## ◆同じ場にカイロプラクティックと鍼灸の専門家がいます

同じ場にカイロプラクティックと鍼灸の専門家がいて、すぐに相談ができる。そして、あなたに必要なかつ適切な治療を見つけていく。そんな当院ならではの治療体制を、是非、ご活用下さい。

## ◆予約（治療の選択）と治療の進め方

### ①予約

- ・予約の際に、まずご希望の治療法（カイロプラクティック、鍼灸、両者）をうかがい、基本的にはその通りに承ります。
- ・今の症状に何がよいかわからないことも多いと思いますので、その際はその旨をお伝え下さい。

### ②治療

- ・診察を通じて適切な治療を判断します。
- ・病態や経過により治療の変更や追加を提案することもあります。強要することはありませんので、ご安心下さい。
- ・治療法の変更や追加は、必ず了解を得てしていきます。

## 施術者



**院長 吉岡広記**

明治国際医療大学卒  
吉岡鍼灸院院長（2001年4月）  
鍼灸師



**副院長 山田恵美**

東京医療専門学校卒  
吉岡鍼灸院副院長（2012年4月）  
鍼灸師



**顧問 佐々木 峯**

Hong kong National  
Chiropractic College卒  
D.C.（ドクター・オブ・カイロプラクティック）

この三人で承ります。よろしくお願ひします。詳細は後半の「紹介」をご覧ください

## 受付

	吉岡 (カイロ・鍼灸)	山田 (カイロ・鍼灸)	佐々木 (カイロ)
平日	9:00~19:00	9:00~14:00 (火・水)	9:00~13:00
土曜	9:00~17:00	9:00~12:00 (戸塚)	*主に相談補佐
日曜・祝祭日	休診		

## 施術料

カイロプラクティック		鍼灸	
初診料	1,000円	初診料	
施術料		大人	2,000円
矯正施術	4,500円	高校生以下	1,000円
矯正施術・理学療法	5,500円	施術料	
中高生	4,500円	大人	5,000円
0歳から小学生	3,500円	高校生	4,000円
回数券		中学生	3,000円
矯正施術・理学療法		小学生	2,000円
5,500 × 5回分 = 27,500円		小学生未満	1,000円
→ 25,000円		別途料	
矯正施術のみ		再診料	最終治療日より1年経過後 (初診料に同じ)
4,500 × 6回分 = 27,000円		相談料	5,000円 (30分追加)
→ 25,000円		往診料	往復時間5分毎に100円 (往復 = 往きの時間 × 2) + 交通費
別途料		時間外	1,000円 (休診日2,000円)
書類作成代	2,000円	文書料	1,000円

## 総合治療

当院の目的とする「カイロと鍼灸による総合的かつ相補的な治療」により、諸症状の改善ならびにカイロの治療効果をより高めることを目指す治療です

$$4,500 + 5,000円 = 9,500円 \rightarrow 8,000円$$

\*鍼灸との並行治療のため、カイロは矯正施術のみです  
\*治療は①カイロの矯正施術、②鍼灸の順に進めます

## 予約

**完全予約制** (カイロ・鍼灸とも)

電話またはメールにてご予約下さい

電話 **045-841-5223**

メール予約→



# カイロプラクティックについて

**カ**イロプラクティックとは、1895年にアメリカのダニエル・デヴィッド・パーマーによって創始された脊椎や骨盤などの骨格のズレやユガミをアジャスト（矯正）する療法です。より詳しく言えば、構造（脊椎と他の関節、筋肉など）と機能（神経系や血管系）の相関関係を重視する医学であり、痛みやしびれ、こりなどの原因を筋肉や骨格の異常と捉え、徒手によってそれらを正常化することを目的としています。

**い**まの日本では鍼灸とともに代替医療とされていますが、アメリカ、カナダ、ヨーロッパをはじめとする世界40ヶ国ですでに医療として法的に認知されている歴とした医療であり、保健機関（WHO）が認める治療法でもあるのです。

**ろ**くでもないあやしげな何かではなく、まして怖く危険なものではさらさらなく、歴とした医学に基づく治療法ですから、施術者には高度な専門知識が必要とされます。当院では、世界のカイロプラクティック業界が定める教育水準「国際基準」の大学教育を修了した者（Doctor of Chiropractic）と、そのもとで教育研修を受けた者が施術を行っていますので、安心して治療を受けていただけます。

## ◆カイロプラクティックの特徴

### 3つに要約

- ① 骨格や筋肉（構造）の異常を見つけ、それを手技によって矯正する
- ② 神経や血管の流れ（機能）が正常化する
- ③ 人間本来がもっている自然治癒力が活性化することで健康が維持される

### 自然療法

医学に基づく徒手療法であると同時に、自然療法でもあります

- ・ 身体を部分ではなく、総合的にみて治療する
- ・ 生まれ持った自然治癒力を最大限に活用する
- ・ 心身のストレスをリラックス状態に導く
- ・ 手による脊椎・骨盤・四肢の治療が主体
- ・ 病気治療はもとより予防医学に貢献する

## ◆適応症

頭のとっぺんから足の指先にいたるまでのあらゆる痛みやしびれ、動作制限が適応となります。カイロでは、それらの原因をおおきく①骨格のズレやゆがみによる神経圧迫、②筋肉の炎症、③それらがあわさったものにわけ、① 骨格の矯正と ② 理学療法（主に超音波治療）により治癒させます。

また文字通り①骨格のズレやゆがみを問題とし矯正しますので、主に骨格に規定されている姿勢も適応となり、最も重視しています。

## <代表例>



頭痛 偏頭痛  
筋緊張性頭痛  
顎関節症  
ストレートネック  
ムチウチ ヘルニア



肩こり  
肩背痛  
肋間神経痛



急性腰痛(ギックリ腰)  
慢性腰痛 側湾症  
ヘルニア 股関節痛  
すべり症 坐骨神経痛  
脊柱管狭窄症



膝痛  
変形性関節症  
O脚 X脚  
肉離れ



肩関節周囲炎(五十肩)  
頸肩腕症候群  
野球肩 巻き肩



肘痛  
テニス肘 ゴルフ肘  
肘部管症候群



痛み 突き指  
腱鞘炎  
(ばね指・手根管症候群)



捻挫 突き指  
歩行時の痛み

## 注意事項

### 骨粗鬆症の問題（診察時に要申告）

軽度であれば問題ありませんが、圧迫骨折を何度も繰り返している場合は矯正ベッドでの施術を避け、徒手のみでの矯正と超音波治療で対応することがあります。また、状態によっては鍼灸による治療を提案します。

### 特定の季節や天候、時間帯にのみ症状が出る場合

春になると、冬になると、あるいは雨や寒い日、台風が近づくと、はたまた朝、夕方、寝入りばな、寝てから数時間後など特定の季節や天候、時間帯に症状が悪化することは珍しくはありませんが、その特定の状況下にのみ症状が出るということも少なくはありません。こうした特異的な症状の増減を単に物理的な外の問題として対応してもうまくいかない場合があります。東洋医学では同じ痛みであっても病態が異なると捉え、治療も変えるため、状態によっては鍼灸に変更する、またはカイロと鍼灸による総合治療がよりよいと判断する場合があります。

## ◆治療について

なによりも「痛み」や「シビレ」を速やかかつ適切にとることを使命としています。また同時に全身のバランスを重視し、ふさわしい姿勢やよりよい動作を回復・維持することも大切にしています。



## 治療の流れ

### ①問診 症状についての詳細を知る

- ・経緯：どのような状況で、それまでの生活
- ・経過：症状の増減などの変化
- ・現状：症状の場所と範囲、痛みやしびれの種類、時間帯による変化、動作の制限の有無

\*MRI やレントゲンなどの画像は、検査と施術の補助情報となります。整形外科で撮影された方は、スマホ画像でもかまいませんので、可能な限り持参ください。

### ②触診 現状の把握と診断

- ・骨格の異常
- ・関節、筋肉、靭帯の状態

### ③施術 診断に基づく治療

#### ①アジャスト（矯正） 主にトムソテーブル（矯正ベッド）にて

- ・骨格や関節の矯正
- ・筋肉の弛緩

\*トムソテーブルは、トムソテクニック（ドロップ）のための矯正ベッドで、矯正時にテーブルが落ちます。その際にドンとやや大きめの音がします。もちろん痛くはありません。また、次の矯正の準備のために空気圧を使ってテーブルをもとの位置にあげるため、下から突き上げるような具合になります。これも基本的には痛くありませんが、衝撃があります。この一連の上下動や音が合わない方、あるいは衝撃で痛みが走る状態の方もおられ、その際は矯正ベッドを使わずにアジャストしていきますので、我慢せずにお伝えください。

\*うつ伏せが苦手だったりできない方も矯正ベッドを使わずにアジャストしていきますので、遠慮なくおっしゃってください。

\*代表的な適応症の注意事項に書きましたように、**重度の骨粗鬆症の方**には矯正ベッドを用いた矯正は避け、別の方法で治療していきますので問診時に必ず申告願います。



<トムソテーブル>

#### ②理学療法 主に超音波治療器による筋肉や靭帯の直接的な治療

## 小児の施術

### 乳幼児 触れると泣き出す

「何で泣いているの?」。不安になり判断に迷うことでしょう。そんな時は触れてみてください。触れて泣き出すようであれば、関節の亜脱臼や異常など骨格に問題が生じている可能性がありますので、ご相談ください。

- ・股関節：オムツの交換の時に泣く
- ・肩、肘、手首、手指、足首、足指：撫でたり、抱っこなど、触れると泣く

### 小学生頃まで 不自然な姿勢や動き、本人の申告など

- ・X脚：歩行時に足先が内側に入る（内股）、よく転ぶ（特に走ると）
- ・O脚：歩行時に足先が外側に出る（ガニ股）
- ・側弯症：立位姿勢で後姿を観察した時に背骨が歪んでいる

\*日常の習慣的な姿勢の悪さに起因する後天性疾患であれば、完全な改善が期待できます。

\*先天性であっても成長に合わせて根気強く治療していくことで、骨格の完成をよりよい状態にすることができます。

\*もちろん、大人になった後でも、軽減と加齢に伴う悪化の予防は十分にできますので、あきらめずにご相談ください。

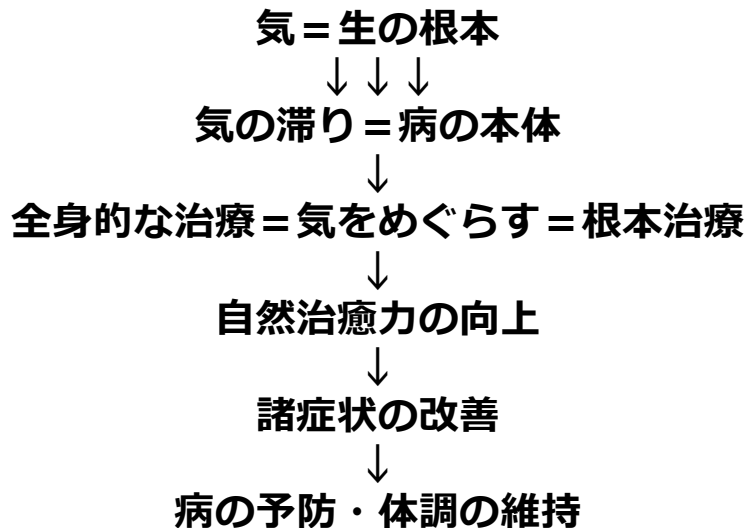
# 鍼灸について

現在の鍼灸は、おおきく二つに分類できます。

- ①「痛み」や「コリ」の解消を主な目的とした現代医学的鍼灸（対症治療）
  - ②全身的な治療を目的とした古典的鍼灸
- ①が圧倒的多数であるため、「痛み」や「コリ」のためのものと思われがちですが、鍼灸の本質は「生の根本」\*である「気」をめぐらすことにあります。

\*『莊子』外篇・知北遊「人之生、氣之聚也。聚則為生、散則為死（人の生、氣の聚れるなり。聚れば則ち生と為り、散ずれば則ち死と為る）」

そのために、当院では日本の伝統的な古典鍼灸の井上系経絡治療を行っております。



「病の本体」である「気の滞り」がやわらげば、様々な症状が全体的に改善していくはずだという考えのもと、「生の根本」である「気」をめぐらすことを主眼とした治療をしていきます。実際に諸症状が改善するという結果からみて、「気」がめぐることによってその人の持つ回復力（自然治癒力）が高まり、自律神経の変調や心身のバランスが整っていると言えるでしょう。また、長く治療をされている方の多くは、「体も軽くなるが、なによりも気が楽になる（気のせいとはよく言ったものだ）」「疲れにくくなった」「いつもよりも頑張れる」「浮き沈みが減った」「カゼをひかなくなった」「顔色（心）が明るくなった」「肌つやがよくなった」など調子のよさを感じられることから、免疫力の向上や体調の維持にも寄与していることは疑いようもありません。

こうしたことから、鍼灸による「気」をめぐらす治療は病名の有無やその未知と既知、病の多寡、それらの軽重に関わらず、また施術する者と受け手の双方が見えていない範囲にも影響が及ぶため、その人のすべてが治療の対象になっているということが言えます。そのため、カイロの治療効果をより高めることもできますし、また相乗効果も期待できます。

## ◆このような時に

### 現代医学では原因不明とされてしまう

\*病院の各科をたらい回しにされるだけで有効な手立てのない不定愁訴

- \*気のせい、歳のせいなどと取り合ってもらえないような症状など
- \*何が原因かわからないために、まったく改善の足がかりがつかめず、極度の不安にさいなまされ、気づけば病名や原因を必死になって探している

### **現代医学では特別な治療法がなく対症治療により経過観察するしかない疾患や症状**

- \*最近では、新型コロナ関連の症状（嗅覚・味覚異常、ブレインフォグ、倦怠感、疲れやすい、精神疲労など）があります

### **手術前の準備、術後の回復、薬物療法の副作用の軽減や継続のための体調管理**

**勉強や仕事、音楽、芸術、スポーツでの集中力や創造力の向上**（スポーツ選手や芸術家などの専門家を含む）

**日頃の体調管理**（風邪やインフルエンザなどの予防、心身のリフレッシュ、多忙な時期を乗り切るためなど）

- \*上記以外にも気になることがありましたらお尋ねください

**そもそもどこに相談してよいのかわからない、あるいは、こんなことはなかなか人に言えないことを抱えている**

- \*上記したすべてでお悩みの場合にも該当しますが、特に口にするのが恥ずかしい、はばかられる、人を選ぶといったことから、言えば気にしすぎと否定されたり、嫌悪されたり、精神的におかしい（狂人）と思われるといった悩み事も少なくはありません
- \*例えば亡くなった人や動物、魑魅魍魎の類との関係（憑物を含む）、予知や人や物事について多くを感じ取ってしまう能力との兼ね合いなどが挙げられます（吉岡鍼灸院HP・来院者から一言・2016年7歳男性「夜中に怖い夢をみて…」・2025年50歳女性「吐き気を伴う背中の中腫れと激痛…」）

## **◆こんな方に**

### **なかなか治らない様々な症状にお困りの方に**

人は、個人差はあるものの、様々な症状を併発していることが常です。現代医学では個別に治療していくため、いくつもの病院に通院しなければならず、大変な思いをされている方も多いかと思えます。

鍼灸では、「生の根本」である「気」をめぐらせ、「病の本体＝諸症状の根本」である「気の滞り」をやわらげる治療をしていくため、それらすべてが対象となります。

したがって、「痛み」や「シビレ」、「こり」はもちろんのこと、頭痛、冷え、のぼせ、便秘、下痢、睡眠障害（不眠や中途覚醒、多夢、悪夢など）、慢性疲労（倦怠感）、食欲不振、花粉症、アトピー、喘息、生理に関する不調、更年期障害、精神疾患など、挙げればきりがありません。このほかにも、風邪やインフルエンザなどの急性の疾患、現代医学では特別な治療法がなく対症治療により経過観察するしかない疾患（手足口病や口タウウイルス感染症など）、小児の諸疾患（夜泣きやぐずり、かんしゃく、病弱、チックなど）、産前産後（妊娠中のつわり・逆子や安産、産後の肥立ちなど）や不妊（男女共）など、その適応は多岐にわたります。

様々な症状に悩まされている方に、なかなか治らずお困りの方に、いっぺんに治したい方に、根本から治していきたい方に、鍼灸治療を取り入れられることをお勧めいたします。

### **前向きになれない方に**

「同じ場所」、「同じ物事」、「同じ出来事」、こういった「同じ何か」は、いつも同じように見え、感じられるわけではありません。ある歌の歌詞に「同じ空がどう見えるかは心の

角度次第だから」とあるように、その時の心身の有り様によって、ずいぶんと違っていることは誰しもが知っていることでしょう（言うまでもなく、それが「気の持ちよう」で変わるような、そんな簡単なものではないことも痛いほど分かっていることでしょう）。

疲れた体、満たされない心、そうした抑圧された心身が、「気が進まない」、「前向きになれない」、「悲観的になる」、「不安で仕方がない」、「気が滅入る」、「落ち込む」、「いつもなら気にもとめない些細な事にいらだつ」、「まぶしさにたえられない」、「暗い方がいい」、「何も考えられないし考えたくもない」などなど、否が応でも人を後ろ向きにさせるのです。

難しいことは抜きに、鍼灸の効果は「気がめぐる」ことで体調が今よりもよくなるということです。「世界は自分」であり、「自分の調子さえよくなれば世界は変わる」ものです。どうにもならない周囲のことですら、少しは変わることでしょう。

### 人生をより豊かにしたい方に

定期的に治療されている方の多くは、主訴の改善はもちろんのこと、同時に日々の疲労を回復して心身の安定をはかることにも目を向けられています。

体調がよくなると、思考力や集中力が高まり、仕事や勉強、家事、芸術、趣味など、様々な場面でよい結果が生まれます。また、その日の調子で結果が左右されるスポーツの場面でも同様です。受験の成功のためや、スポーツで最大限に力を発揮できるよう**定期的な治療（手入れ）**を取り入れる方も少なくありません。

**不調の本質を見失っている方に**（病名にとらわれている、ちょっとした不調に過敏になってしまう）

ここはかなり厳しい書き方になります。

病名は、総体としての病状を捉えたものではなく、そのごく一部を切り取って付けられた便宜的な呼称に過ぎません。

しかし、病名がついたとたんに、多くの人はその病気を受け入れ、全体を見失うと同時に、その病人と化してそれらしく振る舞うようになるのではないのでしょうか。

自分は、あの子は、〇〇病だからと、自ら病名の牢獄に囚われてしまうと、そこから抜け出すことは、容易ではなくなります。よくある高血圧や高コレステロール、アレルギーはもちろんのこと、特に精神疾患や今はやりの発達障害（非常に悪い呼称で、見方を少し変えれば、ある能力が突出したすごい人ということになるわけです。が、そう見るときつと都合が悪い人も多くなるのかもしれないですね）などは目に余るものがあります。病気を受け入れるということ、もっと広く言えば、何かの知識を受け入れることは、その中で生きるということなのです。

体調の善し悪しの判断は、当の本人が勝手にすることですが、特に幼時にあっては、両親、祖父母、友達の親、近所の人、学校の先生など、周囲の大人が代行するものでしょう。もし、その中に神経質な大人が一人でもいるようであれば、注意しなければなりません。きっと周囲を巻き込んでことさらに騒ぎ立てて本人を無理にでも病人に仕立てあげようと脅してしまうからです。もともと無頓着だった本人も、神経質な周囲によって不安を植え付けられ、ほどなく本式の病人になってしまうことも少なくありません（まして病名がつけば、もうほとんど逃げられないでしょう）。ひとたび脅しに屈したら最後、不安の芽は事あるごとにすくすく育ち、わずかなことにも過敏になる神経を立派に備えた大人がまた一人できあがってしまうことになります。

確かに、不調の原因が何かわからないために、まったく改善の足がかりがつかめず、極度の不安にさいなまされ、気づけば病名や原因を必死になって探しているということはよくあることですし、その気持ちは否定しません。しかし、冷静になって考えてみてください。

はっきりとした病名がつけられない、原因不明ということは、現代医学から診た限りではまだ心身に確たる病変が認められないとお墨付きをもらったことになるわけですから、本来なら喜ぶべきことなのではないでしょうか。現代医学に見放された、自分はもうどうしようもないのだと、悲嘆に暮れるのは倒錯としか言いようがありません。

周囲や自身の心持ちにもよりますが、自然にして病院に駆け込まなければ病人にされることもなることもありません。人は病気喧伝や予防・早期発見・早期治療などといった情報に不安を煽られ、病を恐れるあまり、わざわざ微に入り細に入り病を見つけ出そうと必死になってしまっているように見えます。

80歳を過ぎても毎年、がん検診、見つければ、体力が許す限りは手術や抗がん剤治療。いわゆる進行の早いものでなければ、寿命が先かがんが先かという領域に達しているでしょう。真面目だとか、きちんとしているとか、健康に気を配っているということとは程遠いことではないでしょうか。

不調をいちいち細かく区分して、わざわざ個別に対症治療をすることは、もうこれしかないという時の最終手段であって、そうしょっちゅうするものではないでしょう。簡単に病名をつけることは、いくつもの病気を抱えた迷える病人をただいたずらに作るだけです。病名がつかないまでも、ちょっとした不調、例えば咳や鼻水、熱、腹痛、下痢などは比較的好くあることでしょう。風邪なのか、インフルエンザなのか、はたまたコロナなのかと心配になるのでしょうか。そこまで考えなくとも、ちょっとしたでもこうした症状が出たら、薬をもらって早く止めないと、となることが多いのではないのでしょうか。特効薬がなくただ治るのを待つよりほかなかったコロナでさえ、多くは自然と治っていったわけですから、だいたいの不調は休息して自然治癒力にまかせて回復させればよいはずですが、もちろん、人にはすべて事情があって、家事を頑張っている方、勤めている方、学校に通いたい方などなど、「とにかく止めないとならない」、「だから止めたい」となるのでしょうか。本来はそうせざるを得ない社会のあり方を問わなければならないわけですが、同時に、止めることを繰り返すうちに、いつの間にかちょっとした不調に過敏になって、あるいは、認識がねじ曲がって\*、「休めば治る」ようなものですら、「すぐに止める」、そして、「すぐに止められる」と思い込んでしまっていることに大きな問題を感じます。また、本来なら寝込むほどの状態にも関わらず、薬によってただわからなくなっているということすら考えることなく、治ったものと判断してさらに無理を重ねていることも看過できません。そうなった理由、つまりそこに至るまでの経緯、もっと言えば、自分と向き合う機会が奪われ、ただただ心身を酷使し続けるという、恐ろしい日々を過ごす人のなんと多いことでしょうか。そうして、数年後、数十年後、もうこらえきれなくなった心身は爆発し、あきらかな病変を伴う本格的な病気へと成長をとげることになるでしょう。目先のことで生きていくのがやっとということは、私も同じですが、ほんの少し、少しだけでいいので、自分に目を向けていただきたいです。正直、危機感しか覚えません。

\*ちょっとした不調は、「あれ（が原因）だな」と直感することも多いのではないのでしょうか。長いこと寒いなかでいた、薄着で風にふかれ続けてゾクゾクした、寒暖差にやられた、あの無理がたたった、寝不足が続いた、嫌なことがあったなどと。あるいは、家族や仲間うちで、風邪やインフルエンザ、コロナなどを罹患したと思われる時に、何某は「脳天気だから」「ストレスフリーだから」、そのために「元気なんだよ」、だから「うつらないんだよ」とか互いに言い合っているでしょう。簡単に言えば、元気がないから不調になったんだと、とつてもよくわかっているわけです。しかし、悪化するや急に菌だウイルスだ、アレルギーだ、高血圧だと問題がすりかわっていつてしまう。そして、市販薬だ病院だと話が急カーブしていく。西洋医学の治療（ワクチンや薬、手術など）が対症療法と言われる理由でもありますが、外敵や病変は、結果であって原因ではありません。原因は、そこに至る経緯やきっかけであり、その受け手である自分自身が弱った時の反応ですから、初期に感じた直感をもっと大切にしていきたいと思います。さらにそこから、休息、体を温める、ストレスを発散する、運動をする、食事や睡眠、

人間関係を見直すなど、原因から考えられる適切な対処をしてください。それを一緒に見つけることも私どもの仕事ですから、不安があったりわからない時は遠慮なくご相談ください。

東洋医学には、「うつる」という原因論がほとんどなく、外の影響は風雨寒暑の自然環境や人間関係としてみなしますし、なによりも病の本質は自分（の「気」の滞り）にあると考えます。なので、コロナがはやる以前は、高熱やインフルエンザなどで寝込んだ時には、よく往診したものです。「うつったらどうするのですか？」という心配は無用、繰り返しになりますが、「うつる」という考え方がないからです。故にコロナ禍にあっても長らく来院している方とは治療中に互いにマスクをすることもなく、また「うつしあう」こともありませんでした。「病気を受け入れるということ、もっと広く言えば、何かの知識を受け入れることは、その中で生きるということ」とはこうしたことでもあるのです。

病名がつくことではじめて現代医学の病となることを、冷静に考えていただきたいと思います。

また、不調それ自体では、不調の域を出ないのですよ。

そして、不調を全体的に捉えて治療していけるのが鍼灸（東洋医学）なのです。

私たちは、病を「正しく恐れる」とするならば、恐れる前に、できるだけ元気であることです。そのために日常のことに気を配ることで事前の対処を継続していく、それが最大の予防と言えるでしょう。まだ起きてもない病気のことを恐れ、一生懸命に何かをするのならば、努力すべきは定期的な検査やワクチン接種などではなく、自分の身の回りのことであるのはあきらかでしょう。それでもうまくいかないときに、またさらにしっかりと備えたいときに、鍼灸という選択も視野にはいることでしょう。

「何も恐れることなく」、「何も気にしない」、「何も気にならない」、「どうにかなる」と思えることが元気な状態であり、一番であることは言うまでもありません。

### **妊娠中や小児にも**

鍼や灸には、お年寄りがするものというイメージがあるようですが、実際には違います。妊娠中でも産まれてすぐの赤ちゃんでも治療は可能です。

妊娠中では胎児の順調な成長をはじめ、母体の安定と安産、産後の肥立ちのために、小児にはより健やかに育つために新生児から有効な手段となります。また、互いが心身の状態を常に感じとり、影響し合っているため、相互の病因ともなり得ます。このため普段から体調を調えることには大きな意味があります。

症状で言えば、妊娠中では、風邪やインフルエンザなどの投薬不可の症状、お腹が張る、腰が痛い、冷える、むくみ、だるい、つわり、逆子、切迫早産、難産、予定日超過など、小児では、夜泣き、寝ない、かんしゃく、食欲不振、吐きやすい、風邪をひきやすい、アトピー、アレルギーなどを挙げることができます。

### **自分を大切にしたい方に 一歩先へ**

「自分を大切にすること」は、健康でありつづけることにすべてを注ぎ込むことではなく、まして「健康でなくてはならない」「病気になってはならない」というような半ば脅迫的で病的な健康志向のことでは決してありません。私たちは、健康のために生きているわけではありませんから。また、無理をして「楽しむ」のでも、「豊かに」するということでもありません。

私は、「自分を大切にすること」は「相手を大切にすること」であり、また「丁寧に生きる」ことに通じていると思っています。そして、ひとりひとり生まれた時から同じ心身、環境が与えられているわけではありませんから、「生き方」は一様ではありません。時に心をすり減らし、体を酷使することも、ひとつの「生き方」としてあるでしょう。また、何もかもを投げ出すこともあるでしょう。その時々によっても「生き方」は変化していくことでしょう。ただ、常に大切にしたいのは「自分」です。生かすも殺すも、「自分」次

第、自戒を込めて「自分を大切に」。

縁ある方とは、こうしたことも一緒に考えてゆけたらと思っております。

鍼灸は、どこか冷たい対症療法とは違って、「人の生活に寄り添ったもの」と言えるのかもしれません。あなたが一時的に抑えたり回避することを越えて、その先に進もうとする時、きっとその一手段となり得るでしょう。

#### すべての方に ～生活の一部に鍼灸を～

「**生き抜くための自分への努力**」は、一流のスポーツ選手や一部の富豪だけのものではありません。彼等がその重要性を誰よりも熟知し実践しているだけです。翻って私たちが「**自分に目を向ける**」時、目立った不調がなくとも幼時より**鍼灸での手入れ**を取り入れるのよいでしょう。なぜなら、「**ゆとりある心**」と「**健全な体**」こそが**資本であり、最も大切**だからです。

#### ◆治療について

##### 「鍼は痛く」「灸は熱い」ものではありません

鍼は痛いもの、灸は熱いもの、そうでないと効果がないと思われる方も少なくありません。井上系経絡治療のそれは、そういったイメージとはおおきく異なります。

- ・ **鍼**：接触鍼という皮膚表面に触れる鍼法を主としており、痛みはおろか、こちらが黙ってれば、治療後にいつ鍼をするのですかと言われてしまう始末です。
- ・ **灸**：主に知熱灸という熱さを感じたら取る方法で行いますので、がまんする必要がなく、やけどの心配がありません。

#### 診察

①まずは問診からはじめます。お困りの症状（いくつでも）について、「どのようなもの」か、朝夕や天候により変化するのかなど、具体的な様態にはじまり、「いつ」「どのような状況で」起こり、「これまでの経過」はどうか、詳しくうかがいます。そのうえで、日常の食事や睡眠、大小便などの状態を確認します。

②次に脈診です。これは東洋医学独自のものでご自身では感じられない、より深い体の状態を診る診察です。

③問診と脈診の結果を総合して、證（証、ショウ）という診断を立てます。この際、問診から得られた病證と脈診から得られた脈證の一致不一致から予後も診ます。

#### 治療

證にもとづいて、全身的な治療を行っていきます。

①まず手足にある重要なツボを選んで進めていきます。これを本治法といい、全身治療の根幹をなすものです。上記した接触鍼にて行います。

②次いでお腹のツボに知熱灸、座って首から肩背への全体的な鍼と数か所の知熱灸、うつぶせで背中から腰への全体的な鍼と数か所の知熱灸とい手順になります。

③このほか、必要を認めた場合に、局所への治療をしていきます。

#### 鍼灸では難しいと診断される場合には

①難しい状態とは

鍼灸では、診断により病の軽重だけでなく、予後も判断します。その中で、難しいと診断される状態とは、診察により予後不良と判断される病態を指します。

鍼灸の診断は、問診から得られた病證（病態）と脈診から得られた脈證（病態）を勘案してくださいます。少し詳しく言えば、病證から想定される脈状（脈の状態）と脈證（実際の脈状）との一致不一致（順逆関係）を確認します。両者が一致していれば順、不一致であれば逆と判定します。順であれば、症状がどんなに劇烈であっても基本的に予後が良いと判断され、逆であれば予後不良となります。

## ②難しいと診断された場合

予後不良の場合でも、鍼灸治療の継続により少しずつ改善していくこともありますが、まずは現状維持（変化しない）、あるいは悪化の速度を緩めることが目標となります。鍼灸の継続は、どんな場合においても自然治癒力を助けるという点において意味があるものの、すべての不調の改善は不可能です。

鍼灸では予後不良であっても、他の治療により改善が見込まれると判断される場合には、すみやかに提携する治療院を紹介いたします。

特に予後不良と判断される「痛み」「シビレ」は、当院のカイロプラクティック治療を受診いただきます。

\*「当院について（施術者・吉岡・いきさつ）」でも書きましたが、山田のヘルニアの時には、症状と脈状が一致しない予後不良の状態であったため、顧問に治療を依頼しました。ただ、ヘルニアは全快したものの、脈状の変化はありませんでした（今も継続中）。鍼灸では症状の中に肥瘦も含まれており、それと脈状の関係も重要視します。その点で言えば、依然として肥瘦と脈状の不一致の状態、すなわち予後不良の状態が続いているため、鍼灸の継続は必要と判断されます。これまでも同様のケースがありましたから、この点から見ても「カイロと鍼灸による総合的かつ相補的な治療」には意味があると考えております。

# 施術者より一言

## 院長 吉岡 広記

### 【経歴】

- ・明治鍼灸大学（現明治国際医療大学）  
鍼灸学部鍼灸学科2001年3月卒業
- ・鍼灸師（2000年4月国家資格取得）
- ・吉岡鍼灸院を横浜市戸塚区上倉田町にて2001年4月開院
- ・2022年4月カイロケアセンター内に  
同院開院
- ・2022年4月よりカイロ施術担当
- ・2023年4月に院長就任

### ◆2025年をむかえて

2001年から戸塚にて鍼灸専門でやってきましたが、2023年4月からカイロケアセンターを引き継ぎ、本格的に「二足のわらじ」をはくことになりました。

この話がでた当初は、正直どうなるのかわからなかったものの、はいてみると鍼灸とカイロプラクティックは「両輪」の関係になることがわかりました。

鍼灸は内（気の滞り・偏在に伴う諸機能の不全）の、カイロは外（骨格のゆがみ・ズレによる神経圧迫や筋肉の異常）の問題を見つけ調整していく治療です。様々な症状は、どれも内と外に関係していますが、よりどちらに問題がある状態なのか、あるいは両者を問題とすべき状態なのかによって、すべき治療が変わってきます。私どもが掲げる「カイロプラクティックと鍼灸による相補的な治療」は、こうした病態の把握があってはじめてできることです。カイロプラクティックから診る外（骨格・神経・筋肉の状態）についての理解が深まるにつれ、この観点からの診察がより適切にできるようになっていきます。

「両輪」をうまく繰るべく、佐々木顧問により近づくとともに、私なりの理解をより深化させることを常に追求していきます。



## ◆いきさつ

顧問から2019年の末に当院継承の話があり、2020年1月より指導を受け、2022年3月までに要件であるのべ300人の治療を終え、カイロ施術の許可がおりました。それを機に鍼灸の本拠をこちらに移し、2023年4月から院長となりました。

顧問を知ったのは、2013年4月、間接的に紹介された方が来院したことによります。その方から、いつも顧問の話聞いていたものの、顔を合わせる機会はありませんでした。が、2019年5月末、突然、その時がやってきました。2018年の9月頃からはじまった山田の腰痛が、数ヶ月前から急にヘルニアとなり、たえられない状態にまでなったのです。当初から鍼灸では難しい病状（少し専門的に言えば症状と脈状が一致しない予後不良の状態）であることは承知のうえで、自分達で治療したものの、やはり悪化の一途でした。ふと、長年にわたって聞いていた顧問を思い出し、お願いすることになったのが初対面となりました。その後、週3回ほど通い、7月中旬にはほぼ全快。治療の終盤に、山田がカイロを勉強してみないかとの誘いをうけ、9月より研修を始め、ほどなく私にもというように話は進みました。

鍼灸では難しい症状でもカイロプラクティックで治るものがある。これは私たちにとっては衝撃的なことで、それを学ぶ機会を得られ、さらには当院を引き継ぐことになるとは、これも何かの縁なのでしょう。顧問ならびに紹介で来院された方にはあらためて感謝します。

## ◆私から見たカイロプラクティックと鍼灸の違い

顧問より指導を受けるにあたり、まず言われたのは「見て覚えて」でした。

これには面食らいましたし、正直、とても習得できないのではないかとさえ思いました\*1。もちろん質問は許されていますが、「一から十まで」という意味ではなく、どうしてもわからないところがあればということでしたから。

顧問の施術（トムソンテクニックを敷衍し、時にディバーシファイドテクニックを用い、さらに合わせ技もある）は、実際に「できる」かは別にして、まったく「簡潔明瞭」で、確かに「見て覚える」ことのできるものでした\*2。

また、学び始めた2020年の上半期はコロナ騒動の最初期で、来院者数が格段に減り、ひとりひとりの施術をじっくり見学する機会があったことは幸運とも言うべき時間となりました。なぜか。予約の空きがなければ、朝一番の患者さんの施術を見て、その日が終わるまで隣のベッドでひらすら矯正後の超音波治療に従事する日々となり、ほぼ見学できない時間を過ごすことになるからです（今でもですが）。2020年下半期には来院者数はもどりはじめ、早々に「見て」学ぶ機会が激減してしまいました。そんな中、役に立ったのが矯正に用いるトムソンベッドの動作音（落とす音とタイミング）と患者さんとの会話（主訴、骨格のズレやゆがみの指摘、矯正後の確認など）でした。すでに「見てきた施術」から「何をどう診て」「どう矯正するか」をある程度は理解していたため、それらを聞くことで全体像を思い描くことができたのです。時に「見た」ことのない症状や矯正などがあっても、おおむね「何をしているか」はわかりますし、それでも想像できない場合や念のため確認したい時には部分的に質問すればすぐに教えてもらえました。それもちょっとした「一言」で。ここに、診察と矯正がいかに「簡潔明瞭」であるかが現れています。

「簡潔明瞭」さは、鍼灸も同じですが、大きな違いは「見て覚えられる」かどうかです。鍼灸は、「見て」わかるのは「動作」だけで、「何をどう診て」「何のために鍼や灸をしているのか」まではわかりません。問診でさえ、主訴までで、その背景や経緯、さらには睡眠や飲食大小便

などの周辺のことを聞いて、それらをどう診察診断しているのかまではわからないでしょう。まして、肥瘦、顔や肌の色、声の高低大小さえも診ていることなどまったく伝わらないでしょう。脈診に至ってはその動作はわかっても、何を基準に判断し、どう治療にいかしているかなど、知りようもないのです。このように端から眺めて感得できるようになっておらず、東洋医学の考え方を知らないほとんど理解できないのです。

こう書くと、あたかもカイロプラクティックがたいしたことがないように読めてしまうかもしれませんが、そんなことはありません。言いたいことは、ここからです。

いかにカイロプラクティックのテクニックが難しいかということです。「簡潔明瞭」だからこそ「見て何をしているかがわかる」わけですが、実際に問題箇所の確認や矯正そのものを正確に「できる」ということとはまったく別の問題です。鍼灸にもそれぞれに技法があり、やや乱暴になりますが、基本的には「穴（ツボ）を取れる」「痛くない」「熱くない」という要件を満たすだけでよく、まじめに練習すればすぐにできるようなものです。一方、カイロプラクティックは問題箇所をさぐりあてることでさえ、「見た目」ほど容易ではなく、まして矯正ともなると、問題箇所にきちっと手を当てることから始まり、体格や骨（関節）、周辺の筋肉の状況に応じた力加減や角度、深さというものが重要になってきます（こういうことが必要とわかること自体が簡単ではありません）。これは本当に難しい。骨格の問題（ズレやゆがみ）がわかればそれらをもどせばよいという「考え方」は「頭」で簡単に理解できても、「手」で問題の骨をどう動かすかという「意図」と「手技」はまったく別次元のこと。鍼灸では味わったことのない苦労でしたし、今なお追求し続けていることでもあります。

誤解を恐れずに言えば、鍼灸は「考え方」を座学によって学ぶことが大切であり\*3、カイロプラクティックは「見て」学べる「考え方」の先の「手技」が重要という違いがあると、私は感じています。鍼灸は内（気の滞り・偏在に伴う諸機能の不全）の、カイロは外（骨格のゆがみ・ズレによる神経圧迫や筋肉の異常）の問題を見つけ調整していく治療であるが故の学び方の差とも言えます。

顧問が今なおトムソンテクニックを敷衍しているように、私もまた鍼灸とカイロプラクティックを「両輪」の関係として行使できる私にしかできないこと\*4も含め、日々、応用するという具合に、引き続き研鑽に務めてまいります。

\*1：私の専門である鍼灸は、3年間の講習会と勉強会を経て、それも座学と実技の両方をみっちりやって、ようやく一通り身につけ、またさらなる継続と仕事を通じて深化していくというものでした。

\*2：カイロプラクティックには、重点の置き場や矯正方法の違いによるいくつかのテクニックがあり、すべてがそうではないとは思いますが、また、あとでも触れますが、カイロプラクティックの難しさは、私にとっては「テクニック」でした。

\*3：鍼灸（東洋医学）は、経験則と思われがちですが、もちろん立場によっても異なるわけですが、少なくとも私のよりどころとする井上系経絡治療はシステムティックな医学であり、その根幹は陰陽五行です。SEKAI NO OWARIの歌の歌詞を借りれば、そう「なんでもかんでも分類、区別、ジャンル分けしたがる」bad habitな医学と言えます。人は「そんなシンプルじゃないもっと曖昧で繊細で不明瞭なナニカ」だからこそ、治療には秩序立てる診察が必要となり、病態にあわせた治療の方向性やそのための経絡やツボを選ぶための「考え方」が極めて重要になるのです。治療に用いるべきツボが決まれば、あとはそこに鍼または灸をするだけで、そこで特別な何かをすることはないので。鍼や灸の技術はどうか、ということもありますが、現時点での病態把握（虚実）では、鍼は「痛くないように刺す（補）」「痛く刺す（瀉）」のふたつしかありません。また、経絡治療は鍼の医学のため、灸については井上系特

有の「熱くなったらとる」知熱灸と、「熱くない」点灸の二種になります。また、一般的に言われている「熱く感じない時は熱く感じるまで」「最初からとても熱く感じる場合は熱く感じなくなるまで」といったことも考慮します。

\*4：自画自賛するわけではありませんが、カイロの理解が深まることで、関節のズレやゆがみを、動きを介した細かな変化や全体の関係性の視点からもわかるようになり、鍼灸の知識や経験もあいまって、矯正の幅も日々広がっています。これも鍼灸では感じられないことのひとつであり、カイロの特徴なのだろうと理解しています。個人的にはビリヤードに似ていると感じます。ただ球を撞くだけにせず、ひとたび本格的に向き合ったなら、一気に奥深いものになります。撞く前にまず配置から取り切る計画（思考）と必要な撞き方（テクニック）を思い描きます。そして、実際に撞く際には、自分の持てる技術がそれを実現できるかという「考え方」と「技術」の両立が要求されます。つまり、どんな球にするかは、次、またその次の配置を考えつつ、「思考」と「自分の技術」の兼ね合いで決めていくことになります（そこには、患者の病態に影響を及ぼす環境と同じく、部屋の湿度や温度、台のラシャの状態といった状況も含まれます）。球の種類は、押し引き、捻りといった撞点（上下左右）による変化が中心となりますが、キューを振る速さ、角度、奥行き、それを制御する肩、肘、手首の力加減と握る強さ、撞く瞬間の調節、もっと言えば上半身の高さ（目線を含む）、そこに力を伝える下半身、特に重心の取り方や移動、それに伴う足の指の使い方など、技術による調整も加味します。一連のことができると、別の撞き方で同じ結果を出せることに通じるため、撞き方（組み合わせ、調整の仕方）は無限（無段階）になります。その幅を可能な限り広げ、すべてにおいて安定させていくことで、おもしろさは増し、さらなる上達にもつながっていきます。こうしたことをふまえ、頭で組み立て撞くまでを想像し、実際に撞く。結果からまた考える。選択はよかったのか、想像通り撞けたのか、よりよい選択はあったのか、と。その反復。そして、最善を探し続けること。撞いた刹那の自分と球との会話と言えましょうか、失敗すら有益な情報になります。「こうしてしまったからこうなった、ならばこうすればよいのでは」、「こうしたらどうなる?」、「あれはこうだからこうなるはずだ」、「だからこの場合はこうしよう」といった具合に。このようにどれだけ情報を受け取り対応できるか、それも瞬時に。直感に近づけるために。高い集中力を長く維持することは体力的にも精神的にも難しいですから。長くなりましたが、この追及の仕方、気付き、応用が、カイロでは多々あるのです。

当方を頼ってくださる方には、その時々にはできうることをしますし、長く来院される方には、私の成長変化も感じていただけるかと思えます。

一方、山田は学び始めた当初から顧問に「思い切りがよい」と評され、私から見れば天才肌。テクニックはあっという間に習得してしまいました。よく見えているのですが、ものによっては見てもいないにも関わらず、こちらが口頭で伝えただけで瞬時にということもあります。

私は顧問からは「考え方」について「飲み込みが早い」「センスがある」、山田からは「一を聞いて十を知るタイプ」と言われ、「考え方」は早い段階から理解できていたと思いますが、テクニックの基本ができるようになるまでも本当に苦労しました。不器用ですから、人よりも努力が必要です。

#### ◆経絡治療の効用 ～理論と現実のはざままで～（雑誌より引用）

私たちは、主訴の解消を第一の目的としている。しかしながら、その原因が患者の置かれている環境にあるため、改善に向かうのか、上下しながら一定の状態を維持するのが精一杯なのか、はたまた悪化の一途になるのかは、施術する側にはどうすることもできない問題と言える。ただ、だからといって治療がなんの意味も持たないということにはならない。むしろ、それを

前提に重ねていかなければならないし、そうしていけばよいのである。「簡単なものは誰がやっても簡単だし、難しいものは誰がやっても難しい」\*と、勉強をはじめた頃に井上雅文のことばとして篠原孝市や依田良宗\*\*から聞いたが、今にしてみれば端的に治療の在り方を示していることがよくわかる。こうしたことをふまえ、今回は経絡治療の効用について考えてみたい。

\*篠原孝市「臨床に活かす古典 不治」『医道の日本』二〇一六年十二月号。

\*\*井上雅文の一番弟子で、優れた臨床家。篠原孝市「臨床に活かす古典 医箴」『医道の日本』二〇一七年七月号。

経絡治療の効用は、なによりも気がめぐることによる心身の様々な変化にある。それは、主訴が変わらなくても感じるることができるもので、日常の些細な部分にあらわれる。私たちは、顔色、呼吸、声、表情、言動、装いなどに見て取るが、患者の率直な感想からもうかがうことができる。印象的なものをいくつか挙げてみよう。治療直後には、「眠くなる（多数）」、「このまま寝ていたい（多数）」、「気分が落ち着く（多数）」、「呼吸が深くなって気持ちがいい（八十代自営業）」、「気持ちが明るくなって、緊張し過ぎなくなる（四十代主婦）」、「さっきまで寝起きが大変だったのに、ほら、立ったままでズボンを履けるよ。体が軽くなった（八十代自営業）」などの声が聞かれる。長期にわたる治療の果てには、「そういえば風邪をひかなくなった（多数）」、「いつもならこのあたりで倒れているけれど、なんだか頑張れるよ（四十代会社員）」、「こうやって手を入れていなかったら、とくに脳梗塞かなんかで倒れてるよ（六十代自営業）」、「何かがよくなるというよりも、何かが悪くならないという所がいい（八十代自営業）」などの声があがる。極めつけは、「疲れている時にすると最高なんだよね（小学生）」であろう。

一方、主訴の改善に対する感想は、冷ややかなものである。すぐに解消した場合、驚くと同時に「なぜ」などと言って不服そうにする。あるいは回を重ねるごとに軽減していく場合には、「まだある」などと主張して経過に関心を示さない。ややもすると、「もうだいぶいいから」と途中で切り上げることもすらある。ある程度の期間を経て改善または解消した場合に至っては、変化が緩徐であるために当初の苦痛を忘れ、こちらの指摘を受けて「言われてみればそうだったかしら」というような具合である。なにも批判しているわけではない。主訴とそれ以外のこととでは、見え方がまるで違っているというだけのことである。ただ、主訴であれそれ以外のことであれ、ほんの少しの変化に気づき、それをよしとできるかどうか、経絡治療の効用を実感できるか否かの分かれ道となると私は考えている。まだ開業して間もない頃に「経絡治療のよさを感じない人に、電撃のごとくにわからせたい」と息巻いていた鍼灸学校の先輩を思い出す。「気持ちはわかるが、患者の弱さの程度（必ずしも陰虚の度合いとは比例しない）が決めることだろうから、弱さを知らない強い人（内傷の深いこともある）に感じさせることは難しいのでは」というような旨の返答をしたが、気に障ったようで憤慨していた。いまだに適当なことばを見つけられずにいるが、この考えは今も変わらない。

最後に、私自身が治療を受けて実感した効用について述べ、本論考のまとめとしたい。鍼灸の初診は高校一年の夏である。きっかけは、陸上の長距離部で、足を痛めたことである。知人に紹介された先生は、本治法しかしない徹底した経絡治療家で、どんな時でも痛む箇所には決して触れることはなかった。誰もがそうであるように、半信半疑で通い、ほどなく治っていた。このため、その時はよくわからないままに終わってしまった。効用を実感したのは、その後の合宿の合間に受けた一回である。翌朝の練習（十六キロのペース走）でのこと、全身の筋肉痛はなんら変わることはなかったが、なぜか体がやけに軽く、呼吸も楽であった。さらに驚くことに、ペースが自由（競走）となる最後の一キロではなおも体が動き、普段なら勝てない先輩の先を行くという事態が起きた（スーッと上がっていく感覚は忘れられない）。特にスポーツでは心身の調子は重要となるが、この時に鍼灸で整うということを知るとともに、人にとっての根本的な問題が何かということをはっきりと理解することができた。その後は、普段のみならず、試合前には必ず受けたが、その度ごとに同様のことが起きたわけではない。ただ、それがかえってよかった。なぜなら、人とはそういうものだと、片方ではわかったからである。

この時に感じた経絡治療の効用は、鍼灸の道に進む動機となり、施術する側となった今でも大事にしていることである。いかがであろうか。

「鍼の会雑誌」第30号（平成29年12月号）論考原稿・吉岡広記執筆

## 副院長 山田 恵美

### 【経歴】

- ・東京医療福祉専門学校2010年卒業
- ・同校医療専門課程教員養成科2012年卒
- ・鍼灸師（2010年4月国家資格取得）
- ・専門士（医療専門課程）  
鍼灸マッサージ教員資格2012年取得
- ・吉岡鍼灸院副院長2012年4月
- ・カイロケアセンター副院長就任  
2023年4月

### ◆2025年の抱負

あけましておめでとうございます。  
あたらしい年のはじまりから、もう半月以上すぎました。  
今年もよろしく願いいたします。  
年初のご挨拶とともに今年の抱負を・・・と考えましたが、ゆるりとはじめたルーティン作りを引き続きすすめていきます。  
日常生活を一つでも多く、シンプルにあまり考えなくても進められる流れをつくっているところです。そういうこと

を考え始めた理由は、年々気力も体力も落ちてきたら・・・・・・・・。

ということではなくて(笑)、毎日頑張らないと消化できない一日よりも、ゆとりを持てる一日を過ごしたいから。ということがはじまりです。そしてもう一つ大事なのが、ゆとりをもつことで、治療家としての学ぶことや、考えたりすることにエネルギーを注ぎたいからなのですね。これだけのことですが、ハードルは「シンプルな流れ」を確立することです(笑)。

日常に流されず、とおもいつつ、流されながら、この仕事を選んだ理由を見失わずまっすぐに進みたいです。

### ◆ごあいさつ

わたしはカイロケアセンターで仕事をするようになるまえは、椎間板ヘルニアに苦しむ顧問の患者でした。また10年間、鍼灸師として仕事をしています。その間、2人の子供を帝王切開で出産しました。お腹を切ったあとの傷は相当痛むと予告されましたが、意外に平気でした。そして、2人目のときはさらに痛いはずとのことで、今度こそ覚悟を決めていたもののやはりそれほど痛みもなく、翌日には真っ直ぐ立って歩くことができました。産婦人科の看護師さんにも驚かれました。帝王切開で出産すると産後の入院は少し長くなりますが、その間ほとんど痛みもなく、のんびりと入院生活を送りました。そうできたのは産前産後含め日常的に鍼灸治療を受けていたからだとおもいます。しかし、帰宅した瞬間から温存していたはずの体力はあっという間に使い果しました。2人目を出産した年は、およそ1年の間、顔、首、腕が湿疹だらけ。それが治まった2年目には腰痛が始まりました。鍼灸治療では補いきれず、およそ1年後には立っても座っても痛みは続き、じっとしてられず歩きながら食事をしたり、子どもを寝かせるために布団の傍らに座ることもできませんでした。それだけでなく、夜も眠れなくなり、「どこかで体を交換してもらえたらいいのに」と考えたりもしました。そんなとき「カイロうけてみたら？」と吉岡がいました。その一言がきっかけで、患者さんづてに何年も前から話にはうかがっていた顧問のことを思い出しました。治療は週に1度のペースでスタートしました。3ヶ月弱の間に多いときには週3回かよいました。するとある時を境に突然痛みが消えはじめました。そのころ、このカイロの技術を学ばないかとお話がありました。この間の痛い経験とこの技術を身につければ同じように困っている人の助けになれる、とのことでした。

わたしは鍼灸師で、鍼灸治療は誰にでも必要だとおもっています。人が不調になる理由は様々です。しかしその様々な理由は鍼灸の診察を介せばアプローチできます。それが可能な有効で数少ない手段のひとつで、治療すれば人は変化していきます。しかし、その度合いは治療を受ける人が望んでいるレベルに達するとは限りませんし万能ではありません。治療をする側にとってみれば、もう少し気長に自分と向き合ってほしい、がんばってほしいとおもいますが、痛みや苦痛をかかえている人にそれは難しいことだと実感しています。なので、カイロでまず大きな痛みなどをやわらげれば、また自分と向き合うゆとりがもてるとおもっています。鍼灸では体のどこかに痛みがでたり、以前より風邪をひきやすくなることなどは、なにか原因がある、あるいはなにかの前ぶれかもしれないとかんがえて、その理由を探しながら治療していきます。

カイロと鍼灸がわたしにとって必要なように、自分の経験は案外おおくの方に当てはまるのではないのでしょうか。仕事の有るストレス、無いストレス、勉強、家事、出産、子育て、さまざまな人間関係、長年なんとなくやり過ごしてきた不調など。どなたにもなにか当てはまるとも言うからです。

お困りの方のお役に立てればなによりです。

## 顧問 佐々木 岬

### 【経歴】

- ・ 明治学院大学経済学部卒業
- ・ Hong kong National Chiropractic College卒業
- ・ 「Doctor of Chiropractic」称号取得
- ・ 横浜市中区本牧間門「港南病院」にて2年間、カイロ外来担当
- ・ 横浜市中区元町で開院
- ・ Yokohama Country Athletic Club 首都圏在住外人会員制スポーツクラブ 指定カイロドクター
- ・ 1995年 横浜市港南区日限山に移転
- ・ 2023年4月 カイロプラクティックケアセンター顧問就任

### ◆ごあいさつ

はじめまして。顧問の佐々木でございます。カイロプラクティック治療に従事して40年以上になります。

残念ながら、カイロ治療は日本では法制化されておられません。医療として認定されていないのです。ですから各種保険も適用されません。治療代は患者さんの自己負担になってしまいますが、それでも痛みやしびれでお困りの方々が、ご紹介で多く来院されます。その方々が少しでも早く「痛み」「しびれ」から解放されるように速やかにかつ的確に痛みを取ることを最優先に治療しております。「カイロは怖い」「カイロで悪くなった」、こう言う声もよく耳にします。これは正規のカイロ治療ではなくて、「カイロまがい」の治療を受けた方々の声なのです。カイロ治療で良くなった多くの方々が、そのすばらしさを認めていることも事実でございます。世界74カ国で医療として認定されている国際的な療法ですから、当然のことです。これからも微力ながら、痛みやしびれでお悩みの方々のお役に立てるよう頑張っております。

なお、2023年4月より私は顧問となり、吉岡に院長を、山田に副院長を任せることにしました。国際基準のカイロ専門大学を卒業して、学位を取得している私の指導を受け、経験も積んでおり、任せられると判断したからです。「生涯現役」をモットーに、まだまだいつもどおり院にありますが、これから先もカイロプラクティックケアセンターを長く続けていくためには、新体制にするちょうどよいタイミングと考えております。どうぞみなさまにはご理解をいただき、引き続き私どもをよろしくお願い申し上げます。

## 所在地

〒233-0015 横浜市港南区日限山2-1-33 日限山開成ビル3F

電話 045-841-5223

### 公共交通機関

横浜市営地下鉄「下永谷」駅：徒歩約10分

横浜市営地下鉄「上永谷」駅：江ノ電バス「京急ニュータウン」行き「日限山」下車

JR「戸塚」駅東口：江ノ電バス「京急ニュータウン」行き「日限山」下車、徒歩約2分

駐車場 24・32・B



<外観>



<駐車場入口>